



AIYES 通信

横浜スペイン協会会報

発行・横浜スペイン協会事務局 鎌倉市大船 1709-18 FAX 0467-44-5876

日本・スペイン交流 400 周年記念

—駐日スペイン大使閣下メッセージ—



El Embajador de España

MENSAJE

Con motivo de la celebración del 400 aniversario de relaciones entre España y Japón me complace dirigir un mensaje de saludo a los lectores de la revista "AIYES", publicada por la Sociedad Hispánica de Yokohama.

Durante los últimos años esta revista ha venido realizando una importante labor de difusión de la cultura española en Japón, dando a conocer nuestro país al pueblo japonés.

En 2013 y 2014 celebramos el Año Dual España-Japón, que conmemora el cuarto centenario de la Embajada *Keicho* enviada a España en 1613. Partiendo de la larga tradición histórica que existe entre nuestros países, nuestra contribución a Japón se centra en ofrecer una imagen de la España moderna actual mediante numerosos eventos y actividades en diversos ámbitos, lo que nos permitirá hacer aún más patente este interés común y nuestro mutuo deseo de seguir estrechando nuestras relaciones bilaterales con Japón.

Por ello, quiero reiterar mi felicitación a los responsables de la publicación de esta revista, así como a sus lectores, a quienes invito a participar en lo posible en la celebración de este año a través de las diversas actividades que se realizarán por todo el territorio japonés, encaminadas a lograr un mayor conocimiento y entendimiento entre las culturas española y japonesa.

Miguel Ángel Navarro Portera
Embajador de España en Japón

(日本語訳)

メッセージ

駐日スペイン大使として、日本スペイン交流 400 周年記念の開催に際して、横浜スペイン協会事務局が発行しております会報 AIYES 通信の読者の皆様にご挨拶出来ますことを大変嬉しく思います。

当会報はここ数年、日本においてスペイン文化の普及にご尽力頂いており、日本の皆様にスペインの紹介をされています。

2013 年と 2014 年には日本・スペイン交流 400 周年を開催し、これは 1613 年慶長使節団がスペインに渡航してから 400 周年を記念する事業でございます。両国の間に存在する長い歴史の伝統をもとに、我々は日本の皆様に今のスペインを紹介し、様々な分野でイベントや活動を予定しております。これにより更に多くのことをお互いに共有し、日本との両国関係を更に深めていきたいと願っております。

最後に当会報の担当者様、そして読者の皆様に今一度お祝いを申し上げ、日本全土で繰り広げられる様々な事業を通じて、この記念の年に参加下さいますようお願いし、スペインと日本文化の相互理解がさらに強固になるよう期待しております。

●10月の「旅でスペインを識ろう会」

～ セゴビアーその繁栄と衰退を探る ～

セゴビアの起源はケルト・イベリア族だと言われている。その後水道橋(紀元後 1C)を建設した古代ローマ帝国がこの地を治める。8世紀にはイスラムにより征服されたが、標高 1000m の冬の寒さの厳しいこの地には定住せず、セゴビアはほぼ無人地帯となった。その後レコンキスタが進み 1088 年、アルフォンソ 6 世により再入植が始まりこの町の歴史が開始された。



写真：セゴビア水道橋

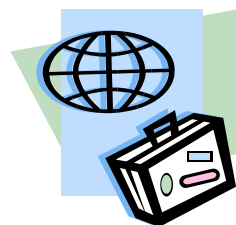
カスティージャ王国の重要都市となったセゴビアは、牧羊業と毛織物産業で 12C より栄え、16 世紀前半に隆盛を極める。即ち王国内にある主要長距離移牧路(スペイン南部の冬の牧草地と北部の夏の牧草地を羊が移動)の 1 本がセゴビアを通り、この地で剪毛するため、羊毛の生産地となった。長距離移動牧羊組合会議のメスタは王権により保護された。何故なら、カスティージャ原産のメリノ種の羊による羊毛輸出が、カスティージャ王国に多大な富をもたらしたからだ。

しかし 16 世紀後半からセゴビアは衰退してゆく。その一大要因がコムネロスの反乱にある。1516 年にカルロス 1 世がスペイン王として即位するが、フランドル人の寵臣に取り囲まれ、ブルゴーニュ風の宮廷文化を愛し、スペイン語も話せない国王に、スペイン国民の反発は増大する。又神聖ローマ帝国の皇帝選挙に際し、フッガー家などの国際金融業者から多大な金を借り、その返済のための上納金をコルテス(身分制議会)で無理やり認めさせた。これに対しコムニダと呼ばれる諸都市の中世的自治を求める団体が 1520 年に反乱を起こす。これが「コムネロスの反乱」で、セゴビアでこの戦いの先頭に立ったのがファン・ブラボであった(注：街のメインストリートや劇場に彼の名前を冠し、銅像も建てられている)。しかし 1521 年にコムネロスは王党派軍に敗れた。その後セゴビアは都市としての力が失われ、王権は強権的な政治体制を敷くこととなった。



写真：San Martin 教会の前に建つ Juan Bravo 像

旅の写真を見ながらここまでお話しして時間切れとなり、この続きは来年 2 月 17 日の「旅でスペインを識ろう会」で、ということになりました。(栗山由美子)



●シネマ・サロン

「しわ」(「Arrugas」) 2011 年、スペイン・監督 Ignacio Ferreras・原作 Paco Roca

自分はまだそれほど老いてはいないと思っている元銀行員の主人公が、息子夫婦に連れて行かれた養護老人施設で何日かを過ごすうち、別の人と薬を間違われたことで、自分がアルツハイマーであることに気づき、そのショックで症状が悪化してしまう。同室のお金にうるさく抜け目のない友人がそれを見かねて元気を出させようとあることを思いつく。彼はため込んだお金で、高級車を調達し、他の仲間も乗せドライブを楽しもうとする。結果はスピードの出しすぎで大事故を起こしてしまい、大けがを負ってしまう。また施設へ。

題名からして身につまされる内容と予想していましたが。高齢化社会と認知症を手描きアニメーションの手法で、さりげなくユーモアも散りばめて描かれていましたが、色彩や動きには少々寂しげな雰囲気も漂っていました。おとなしい主人公と対照的に陽気で世話好きで金に執着する同室の友人の存在や、物を集めることが好きなおばあさん、夫を献身的に看るおばあさん、いろいろなタイプの老人が明るい感じをだしていました。



「メキシカン・スーツケース」(「The Mexican Suitcase」) 2011・スペイン・メキシコ合作、監督 Trisha Ziff

20 世紀の五つの大戦を取材し、その悲惨さを世界に示した写真家ロバート・キャパ。

その彼と、同僚のゲルダ・タロー、デイビッド・シーモアーの 3 人がスペイン内戦を共和国派側からとらえた 4500 枚の写真(ネガ)の入ったスーツケースが 2007 年にメキシコで発見されました。第二次世界大戦の初めの混乱のなかで、キャパのパリの事務所から消え、当時スペインからの亡命者をあたたかく受け入れた唯一の国・メキシコで発見されたということは、これらのネガも亡命者と同じ旅路をたどったことになります。多くの写真を提示しながら、彼らとつながりのあった関係者たちの証言、その時代を生きた人々がそれぞれの体験や状況を語る—という内容です。戦う兵士たち、逃げ惑う人々、国外へ逃れる人々、その状況の中を生き抜いた人々がどうしても忘れられない当時を語る。特に印象的だったのは、冒頭に出てくるシーンで、孫(若い女性)がおじいさんの遺骨を探す場面(特に共和国派の戦死者はどこに埋められたかもわかっていないことが多いと言われています)。隣国から追い返されて砂浜にうずまって眠る家族たち。内

戦の惨状は写真と語りにより訴える力がより強くなります。「写真で世界を変えられる」と彼らは信じていた—とこの映画の編集者は述べていますが、その後の世界は私たちが知る通りです。

なおキャパの出世作「崩れ落ちる兵士」は、実はゲルダが撮ったのではないかと、今年初め沢木耕太郎氏が「キャパの十字架」の中で詳しく検証しています。また横浜美術館でも

「ロバート・キャパ/ゲルダ・タロー 二人の写真展」が春に開催されました。(松本益代)



●スペイン語クラス

《特別講座実施報告》

スペイン語クラスは、通常の講座のほかに、特別講座が開かれています。今回は以下のとおり、特別講座の実施報告を致します。

➤2013年夏期スペイン文化講座

横浜スペイン協会の恒例の夏期スペイン文化講座が、今年もお盆の週を除いた7月末から8月末まで週2日（月曜と水曜）午前10時半から12時半まで県民センターで8回開かれた。（7月29,31日及び8月6,7,19,21,26,28日の各日。）講師はスペイン人の Francisco Garzón Bravo 氏と Aingeru Aroz Rafaelo 氏のお二人。



写真：講師のフランシスコ先生と受講生の皆さん

演題は ◆ Historia de la lengua Española（スペイン語の歴史）◆ La Cultura Islámica y la Cultura Judía de España Medieval（中世スペインのイスラム文化とユダヤ文化）◆ Carlos V（カルロス5世）◆ Actualidad Española（現代のスペイン）といずれも興味のあるテーマであり、スペイン文化、アラブ文化、ユダヤ文化が混合した多様性のあるイベリア半島の文化について色々と学ぶところの多い文化講座であった。

Aingeru 講師とは8月7日、Francisco 講師とは8月28日に、それぞれ講義の最終日に打ち上げとして皆で軽い昼食会を行い、更に交流を深めた。来年の文化講座も楽しみである。（幸島 雄一郎）



写真：講師のアインゲル先生と受講生の皆さん

➤スペイン語で新聞・雑誌を読む会



半期に一回の外部スペイン人講師による講義で去る7月27日（土）にサンチャゴ・マルチン・シプリアン東海大学准教授をお招きしてサラマンカとサラマンカ大学の歴史についてスペイン語で講義をして頂きました。生粋サラマンティーノの先生による話は郷土愛と誇りを感じさせる熱意溢れる講義でサラマンカの地理と紀元前3世紀から現代までの歴史、特にその歴史の中の最重要な地位を占めるサラマンカ大学について熱く語って頂きました。（中村瑛子）

《スペイン語クラス委員会の開催》

第3回クラス委員会が7月17日（水）に開催されました。同会では、スペイン語クラス計7クラスの活動状況、要望事項等について活発な意見交換が行われました。また予めから提案されていたクラス委員会主催の特別講演会が次の通り開催されることになりました。

- 1) 特別講演の演題 : 「嬉し、楽しボランティア・ガイド」
- 2) 開催日時 : 2014年1月29日（水）13:15～2時間
- 3) 場所 : 神奈川県民サポートセンター 604 教室
- 4) 講師 : 渡邊昭夫氏（横浜スペイン協会会員）
- 5) 講演の内容 : 日本を訪れるスペイン語圏からの旅行者を東京、横浜、鎌倉等へボランティア・ガイドとして案内されている講師の体験談をご披露頂きます。

（詳細は、AIYES 通信の折り込み案内をご覧ください。）（福長 昭代）

*講演会についてのお問合せは、福長宛にお願いいたします。

E-mail: akkyo-106@jcom.home.ne.jp

●6月のスペイン・サロン

初夏の日差しが厳しい6月29日、スペイン・サロンに参加させていただきました。今回は、「慶長遣欧使節400年記念講演会」として、講師に慶長使節船ミュージアム館長の濱田直嗣先生をお招きして開催されました。

歴史好きの私にとって、また日本とスペイン、それもその繋がり第1ページを飾る「慶長遣欧使節」とあっては、参加せずには居られず、早々に申し込みをさせていただきました。

さて「慶長遣欧使節」と聞きますと、油絵で描かれた支倉常長の肖像画を思い浮かべる方が多くいらっしゃるのではないのでしょうか。しかし、その肖像画とは対照的に日本における彼と使節団の資料は多くないと伺っています。彼を送り出した伊達政宗の思惑、また支倉自身の思いは何だったのであろうか？今回は、濱田先生の長年のご研究から新しい視点での慶長使節についてのご講演をいただきました。そのキーワードは、津波。2011年3月11日、東日本大震災の津波は、先生が館長をされている慶長使節船ミュージアムにも被害をもたらしました。濱田先生は、このことが慶長大地震による大津波が襲ったスペイン船との繋がりを注目されたとのことです。両震災における多くの犠牲は、大変悲しいことです。ただ、当時奇しくも日本沿岸にいたスペインの船舶を襲いましたが、その生存者と自ら被災者であるにも関わらずスペイン人遭難者を救助をした日本人との繋がりがあったとのことです。

日本スペイン交流400周年という記念の年、日・西両国においてその長い歴史と結びつきを記念して様々な行事が計画されているということです。横浜スペイン協会でも、山崎会長はじめ役員の皆さまからいろいろな行事を予定されていると伺っていますので、是非とも参加させて頂こうと考えております。楽しみにしています。
¡Viva España y Japón!

短い時間ではありましたが、大変興味深いご講演に思わず午後の暑さを忘れて、波止場会館を後にしました。（篠原将門）





新入会員紹介



本間 一彦&敬子 (Homma Kazuhiko&Keiko)

東京都 小金井市在住

縁あってこの度 本協会を知ることが出来ましたので入会させて頂きたく宜しくお願い申し上げます。もし可能であればスペイン語の勉強を今更ながら始めればと思っております。
あわせ宜しくお願い申し上げます。



*****事務局からのお知らせ*****

本年6月から来年7月にかけて日本スペイン交流400周年の様々な記念行事が行われています。横浜スペイン協会もこの趣旨に沿って本年6月29日に「慶長使節の世界～伊達政宗と支倉常長の夢と現実～」のテーマで宮城県慶長使節船ミュージアム館館長の濱田直嗣氏に講演をお願いし、好評を博しました。第2弾として10月31日に愛媛県企画による四国巡礼路をスペイン大使のミゲル・アンヘル・ナバーロ閣下と共に歩くという計画に横浜スペイン協会会員も何名か参加致しました。また、記念行事の掉尾を飾るにふさわしい講演会を来年3月頃に計画しております。皆様の積極的参加、ご協力をお願い申し上げます。

◆会員証の提示で、下記賛助会員企業より、表記のサービスが受けられます。

賛 助 会 員	住 所	電話番号	会員サービス内容
レストランオーブ	横浜市西区高島2-5-10	045-441-4996	サングリア 1杯無料
カサ・デ・フジモリ関内本店	横浜市中区相生町1-25	045-662-9474	サングリア 1杯無料
Bar Español	カサ・デ・フジモリ関内本店前	045-651-1074	サングリア 1杯無料
カサ・デ・フジモリ目黒店	JR目黒（東京）徒歩5分	03-5420-5328	サングリア 1杯無料
(有) フレア	鎌倉市大船2-17-8	0467-42-8531	押し花体験費用割引
日西商事（うさぎのいる島）	東京都港区台場2-2-1 ザ・タワーズ・ダイバ 1F	03-5531-2151	生ビール一杯無料

＜編集後記＞ 2020年オリンピック・パラリンピック開催都市は、今秋東京に決まりました。1964年以来56年振り開催されることになります。開催都市候補として、東京のほか、マドリード、イスタンブールの3者で争われ、激戦の結果東京に決まりました。なお、スペインとは当協会の皆様とともに相変わらずの友好関係の保持に努めたいと思います。（澤田 真人）

編集委員 石井加奈弘 桜田ゆみ 澤田真人 下山利明 千葉博子 福長昭代 真木幸子 山崎宗城

*投稿寄稿宛先 〒247-0056 鎌倉市大船 1709-18
横浜スペイン協会会報係 e-mail: aiyes_press@yokohama-spain.jp
横浜スペイン協会 URL http://www.yokohama-spain.jp

次回の原稿締切は
12月10日(火)です。
投稿は800字以内、写真をお付け下さい